

新しい大阪へ 11.22 W選

橋下「維新」政治

橋下徹大阪市長（地域政党・大阪維新の会代表）は、大阪市の廃止・解体の是非を問う住民投票で敗れ、政界引退を表明しました。にもかかわらず、維新の党分裂に伴う政党助成金の分捕り合戦など、政党・政治活動に傾注しています。高い報酬をもらっている、市長の仕事をおろそかにしています。

見識の低さ驚き

橋下市長は、市政に混乱を持ち込みました。なかでも、教育・文化・芸術・芸能にたいする見識の低さには驚きばかりです。



一例を挙げると、「大阪バイオサイエンス研究所」を閉鎖しました。研究所のルーツは、蘭学者・医者の方方洪庵

文化でもうけゆとりのなさ

が私塾として開校した、適塾に行きあたります。幕末から明治維新にかけ、大村益次郎や福沢諭吉ら人材を輩出します。優れた研究所が閉鎖に追い込まれ、優秀な研究者の行く末を心配しています。

橋下市長は、もうからないもの、気に入らないものは処分するという態度です。日本

有数の吹奏楽団「大阪市音楽団」を廃止・民営化し、人形浄瑠璃・文楽の補助金を削減しました。

博物館や美術館、図書館、動物園、水族館は、その都市の文化水準を表しています。集客性も求められますが、それ以上に知的情報を提供する

場、いこいの場としての機能があります。国立民族学博物館の初代館長・梅棹忠夫先生が、文化教養施設でもうけるなんて愚の骨頂だ、と話すのを聞きました。自動車のハンドルに遊びがないと安全に走れないように、行政にもゆとりが必要だと思えます。

建設的に案出し

大阪維新の松井一郎知事候補、吉村洋文市長候補は、「ワンチャンス」といって大阪市民に選択を迫った「都」構想をまた持ち出しました。

船場で育った私は大阪市の名前に愛着があります。府と大阪市の一元化も、他の政令

市では問題になっていないのに、なぜ必要なのかわかりません。府下全域にメリットがあるならともかく、当初の構想から堺市は離脱し、周辺自治体にどんな影響があるのかわかりません。こうした疑問に答えなくて「都」構想を蒸し返すとは、潔くありません。

維新に代わる新しい知事・

大阪市長の下で、建設的な案を出し合い、住民生活に密接に関係した問題解決を図ってほしい。それには「俺の言うことが正しい」式の橋下流でなく、アイデアを出し合える環境が必要です。

聞き手・写真 菅沼伸彦